

タイの農村で学ぶインターンシッププログラム 15 期生募集要項

はじめに

このプログラムは、国際協力や環境保全、NGO に関心がある人を対象に、タイの農村に約 6 ヶ月間派遣し、国際協力に関わる上での視点を養うプログラムです。このプログラムを通じて、国際協力や開発を考える上での基礎的な考え方を学び、将来は NGO をはじめさまざまな分野での社会活動を担えるようになることを目指しています。タイの農村への貢献や現地の村人を支援するのではなく、参加者が農村開発の現場に身を置いて、村人から「学ぶ」ことを重視しています。知りたいこと、学びたいことがあれば自発的に行動を起こせるような自主性を持った人のためのプログラムです。

インターンシッププログラムの目的

国際協力や開発活動を行う上で、相手の文化や習慣を尊重することや「住民主体の開発」といった事がひろく謳われています。しかし、開発学など机上で学んだ知識だけでは現地住民の暮らしぶりや文化、習慣を十分に考慮した活動は行えないばかりか、ときに現地住民の暮らしを壊すことにもつながります。

そもそも「途上国」と呼ばれる地域の開発がなぜ必要で、誰が何のために、どのように行うべきものなのでしょうか。本当に役に立つ「開発活動」はどうあるべきなのでしょうか。そのために私たちは何を知らなくてはいけないのでしょうか。こうした根源的な問題意識に立ち戻って、現地の住民の視点から国際協力のあり方をもう一度考えるのがこのプログラムです。

プログラムを実施していく中で、日本で自分が意識せずに行ってきたことや、生活のあり方、自分の考え方が、少なからず途上国と呼ばれる国に影響し、その影響が知らぬ間に都市と農村の格差を生み出している現状について、現地で暮らす住民の立場に立って感じてもらいたいと考えています。自分のこれまでの価値観や今まで机上で学んだ知識を一から問い直し、これから先の新たな道を見つけられるように JVC はインターン生と共にプログラムを組んでいきます。

インターンシッププログラムが目指すもの

本研修プログラムを通して、以下のことを学びとれるよう目指します。

- ① 日本で自分が意識せずに行ってきたことや考え方が少なからず社会に影響し、その影響が知らぬ間に先進国や途上国と分類された国々の間の格差、都市と農村の格差を生み出している現状を認識できるようになること。
- ② 国際協力を自分の足元の生活との関わりの中で捉え、国を超えた協力のあり方に対し、自分の身の回りから行動に移せるようになること。
- ③ 人々が持つ「生きる力」や「地域の智慧」を認識し、自然と人間の調和を目指す持続的な社会のあり方の実現に向けて行動できるようになること。

1. 募集概要

募集人数：最大 4 名 最少催行人数：2 名

参加費：75 万円 ※参加費に何が含まれるかはこちらをご覧ください。

滞在地：タイ 東北部 ムクダハーン県、コンケーン県、ヤソトーン県、チェチュンサオ県など

研修期間：約 7 ヶ月間（2014 年 9 月上旬～2015 年 3 月末）

応募締切：2015 年 7 月 3 日（金）必着

応募条件：

- ・ 国際協力、環境保全、NGO などに関心があり、このプログラムを通して何を学びたいのかという目的意識をはっきり持っている人。
- ・ 異文化のなかで周囲の人々と協調性を持ってコミュニケーションをとり、積極的に行動できる人、片言でも積極的に話そうという意思がある人。
- ・ 現時点でタイ語は話せなくてもかまいませんが、3 週間のタイ語研修後も独力でタイ語力を伸ばす意志がある人
- ・ 年齢不問。英語力不問。
- ・ 体力に自信のある人

※自分探しや海外での変わった体験・秘境での生活体験、農村ホームステイ、タイでのロングステイを希望する人のためプログラムではありません。プログラムの趣旨を十分にご理解いただいた上でご応募ください。

参加条件：

- ・ 採用後、JVC の会員でない方は会員手続きを踏んでいただきます。
- ・ パスポートの有効期限がプログラム終了時期から 6 か月以上（2016 年 9 月末まで）あること。（6 か月を切っている方はプログラム参加前にパスポートの更新作業をお願いいたします）
- ・ 破傷風の予防接種は事前に受けてください。（接種費用：自己負担）

責任：

研修生は自身の意思において研修に参加し、万一身の回り品の損失や不慮の事故などの被害に遭遇した場合においても海外旅行傷害保険によって対処していただきます。受入れ先と問題が生じた場合は JVC が調整します。

応募方法：

所定の申込用紙と志望動機作文（1200 字程度、書式自由）を郵送、Email、FAX のいずれかで JVC に提出してください。※応募書類は返却しません。

応募先：

郵送：〒110-8605

東京都台東区上野 5-3-4

クリエイティブ One 秋葉原ビル 6F

日本国際ボランティアセンター

タイ担当 下田寛典 宛

FAX：03-3835-0519

Email：arita@ngo-jvc.net

採用プロセス：

応募書類を提出していただいた後、書類選考を行います。その後、書類選考を通過された方には面接を行います。面接は JVC 東京事務所でを行います。面接会場までの交通費はご自身でご負担ください。

書類提出締切	2015 年 7 月 3 日（金）必着
面接日時	2015 年 7 月 6～10 日もしくは 7 月 13～17 日の間で設定
採用者決定	2015 年 7 月下旬
研修開始	2015 年 9 月上旬

帰国に際して：

2016 年 3 月末の帰国後、最終報告書の提出および外部への報告会を実施してプログラム修了となります。その後の長期滞在を希望する際は、2016 年 3 月末に一旦帰国をしてから個人として再渡航してください。

修了後の進路：

修了後の就職の斡旋は基本的にはしていません。修了後に JVC スタッフになれるわけではないことを、予めご了承ください。

2. プログラム予定(2015年9月中旬～2016年3月末まで)

時期	研修概要	期間	場所	内容
9 月上旬	日本での事前研修 研修終了後、渡タイ	約 5 日間	座学:JVC 東京事務所 農業実習:千葉県	<p>現在の世界情勢やタイや日本の農村・農業の変遷・現状について学びます。また NGO が取り組む国際協力の基礎を学びます。その後、約 2 日間の農業実習を行います。</p> <p>【過去の講座例】 「日本の NGO の役割の変遷」谷山博史氏 (JVC 代表理事) 「NGO における政策提言活動」長谷部貴俊氏 (JVC 事務局長) 「世界の貧困問題の構造」熊岡路矢氏 (JVC 前代表理事) 「日本の農業の近現代史」大野和興氏 (農業ジャーナリスト) 「有機農業基礎理論」大柳由紀子氏 (アジア学院)</p>
9 月中旬	タイでの研修	約 1 ヶ月	タイ東北部 ムクダハーン県 カオデー農園	タイの農村に派遣される前に身に付けておくべき農村での過ごし方を農業実習やタイの NGO 訪問を通じて学んでいきます。タイ語の語学研修もこの期間に行ないます。
10 月中旬 ～3 月	農村への派遣	約 5 ヶ月	タイ東北部の農村	NGO や農民グループなどの活動が入っている農村へ派遣し、実際の村人の暮らしを体感すると共に、タイの農村・農業における課題をインターン自身で見つけていきます。途中、中間報告会を行い、お互いの学びの進捗状況を確認し合います。
2 月	他の農村地域の事例視察	約 4 日間	タイの派遣先以外の農村地域	派遣先以外で NGO や農民グループが活動する農村の活動を視察します。他の事例を見ることで、自分の派遣先での活動を客観的に見て、学びを深めることが目的です。
3 月	最終報告会 帰国	2~3 日間	東北タイ カオデー 農園	約 6 ヶ月間の活動報告を行い、プログラムを締めくくります。
帰国後	帰国報告会	1 日	東京	日本から応援していただいた方々に向けて報告会を行います。
	報告書提出 (日本語・英語)	帰国後 1 ヶ月以内		報告書提出をもってこのプログラムを修了します。

3. 参加費に関して

参加費に含まれるもの、含まれないものに関しては以下の通りとなっております。

○参加費に含まれるもの

- ・国際航空券（タイー日本往復）
- ・海外旅行傷害保険（研修プログラム中のタイ滞在期間分）
- ・日本・タイでの研修時の研修費（講師謝礼、農業実習時の実習費・宿泊費・交通費）
- ・渡タイ後、最初の 1 ヶ月間の研修時の滞在費
- ・ビザ代、ビザ取得にかかる交通費（個人的な都合で指定外の場所でビザ申請を行なう場合は、それにかかる交通費は自己負担となります）
- ・タイ語研修費
- ・本研修プログラムに関わるタイでの交通費、宿泊費
- ・帰国報告会時に宿泊が伴う場合にはその宿泊費
- ・本研修プログラム運営費

○参加費に含まれないもの

- ・日本での事前研修中の滞在費（東京研修の宿泊費、食費）
- ・日本での事前研修中の交通費（農業実習の際の交通費は参加費に含む）
- ・帰国時の自宅までの交通費
- ・ホームステイ先での食費、光熱費を含む滞在費（一ヶ月約 1.2 万円程度。約 6 か月間ですと、最低 7 万円程度かかります。）
- ・報告会の会場までの交通費
- ・個人的なタイ国内交通費、宿泊費
- ・生活雑費、お土産代、郵便代、通信費
- ・病気、怪我、事故の場合、海外旅行傷害保険でカバーされない医療費、病院までの交通費
- ・事前の予防注射にかかる費用（破傷風に関しては必須）

4. タイでの受け入れ団体の紹介

○農村派遣前研修

カオデー農園（ムクダハーン県）

タイ東北部にある自然の循環が目に見える形でデザインされた農園。元 JVC タイスタッフとノンジョック自然農園（1998 年～2003 年までに JVC が実施した自然農業のモデル農園）の研修生が自給的な有機農業を営みながら、スタディツアーや研修を受け入れています。ここに約一ヶ月間滞在しながら研修を行ないます。約 70 時間のタイ語研修と農業の研修をすると共に、農村に滞在する前の心構えを学びます。

○農村派遣

派遣先は、研修生との話し合いをもとに調整してきます。派遣後、JVC から仕事や課題を与えることはしません。まずは自分が何をしに来たのか、何を学びたいのかを滞在先の家族に伝えることから始めます。原則として、参加者は農村に一人ずつ派遣され現地コーディネーターが随時フォローアップします。

ポン郡有機野菜市場ネットワーク（コンケン県ポン郡）

2000 年に JVC タイによる地産地消、地域経済・資源の循環、生産者と消費者の関係構築を目的とした「地場の市場プロジェクト」から始まった活動。ポン郡内の有機農産物生産者が、町の消費者に直接農産物を売る市場を運営する。元々、村内の小さな朝市の活動として始まり、2002 年からはポン郡の郡庁前の敷地で毎週月曜と金曜に朝市を行うようになった。現在の生産者会員数は、200 人以上。

これまで地元で生産できるものでさえ外部から購入するという状況がつくられていたが、地元で生産されたものを地元で消費する場ができたことで、お金のみならず、地域の資源が村内で循環するようになった。収入の向上だけでなく、子ども、女性など幅広い層がこの市場に参加でき、村が活性化された。

JVC のプロジェクトとしては 2005 年に終了し、現在では生産者会員による「市場委員会」を中心に運営されている。

アースネット財団（ヤソトーン県）

ヤソトーン県で有機農業を普及している団体。有機のお米を作り、主に海外で販売をしています。農民の農業での自立を目指し、農業協同組合なども立ち上げ、農業に関する様々な研修を行っています。

サナムチャイケート有機農業グループ（チェチュンサオ県）

チェチュンサオ県で 1982 年に僧侶や教員が始めた地域の貧困問題を改善するための団体が設立され、その後、タイの NGO と共に農村開発プロジェクトを実施。その過程で 2001 年に「サナムチャイケート有機農業グループ」として、有機農産物の生産および販売のグループが設立されました。バンコク近郊という立地からバンコクをはじめとする都市生活者への有機農産物および加工品の販売を行っています。計画的な生産管理を行っているほか、伝統野菜の保存や普及なども行っています。

5. 農村での生活について

○滞在先はどんなところ？

滞在の拠点となるのはタイ東北部の農村です。タイ東北部の人口はタイ総人口の約三分の一を占めます。滞在先はそんな中でも有機農業や自然農業を活発に行なっている地域です。

○どんな生活を送っていくの？

農村派遣前の研修

タイ語研修：タイ人講師からタイ語を直接学びます。1 日 5 時間の授業（合計約 70 時間）を目安に、農村に行ってコミュニケーションに困らない程度のタイ語の修得を目指します。

農業研修：タイにおける基本的な自然農業について実習を通して学びます。農園滞在のおよそ半分は農作業になります。毎朝毎晩の家畜や野菜の世話はもちろんのこと、タイにおける農業の状況と自給的な農としての考え方を学びます。

宿泊所：個人の農園の協力を得て研修を行なっています。宿泊所は基本的には数人との共同生活となります。農園では共同で自炊します。農村派遣前研修（約一ヶ月分）の滞在費、食費は参加費に含まれています。

農村派遣後の過ごし方

各農村に 1 名派遣をします。農村では村人宅にホームステイをします。寝食を共にし、滞在先が農民である場合は農作業を手伝いながら農民の生活を長期間体験していきます。滞在先によっては、NGO 事務所が拠点になる場合もあります。原則、1～2 箇所に滞在するようになりますが、各インターン生の関心に合わせて、都度調整をしていきます。農村滞在時は参加者が食費、光熱費を含めた滞在費を支払います。1 ヶ月約 1.2 万円が目安です。

6. 予防接種に関して

破傷風の予防接種は事前に受けてください。その他、狂犬病の予防接種などを推奨します。

以上